

就中三十歳乃至三十四歳級は一吋三分の過差を示してゐる。平均との最少差と雖も臺北州の比にあらずして五分大(七五—七九歳、八五—八九歳)を示してゐる。女は臺中州に亞ぐ優秀にして大體六分の超過を爲す。

臺中州 本州の男は臺北州と軒輊なく優劣何れも一分乃至三分の間にあれども、女は新竹州の男の如く一寸を越ゆるもの十二年齡階段中八を算し、他は七分乃至九分の優秀振りである。

臺南州 男女各歳級孰れも平均以下にして、就中平均位に近きものを覓むれば男に在りては六十歳乃至六十四歳級の平均より二分狭小なると、女に在りては八十歳乃至八十四歳級の同じく五分狭胸なる外、他は七分乃至九分の間にありて狭まし。

今全島平均位に比し、本州の差減を男女別として表示すると、

年 齡	全島平均に比し減									
	二分	五分	六分	七分	八分	九分	一寸	一寸一分	一寸四分	一寸七分
男	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
女	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

高雄州 臺南州と同軌を呈し男女俱に全島平均に達する年齡級一として存せず、男は六十五歳乃至六十九歳級の一減を良好とし、八十歳乃至八十四歳の九分を最大差減としてゐる。其の他平均に比し二分又は三分減は各々三年齡級、四分減は二年齡級、五分、六分及び九分減は各一年齡級宛である。然るに女は其の差減大にして最少七分のもの二年齡級、八分減のもの五階級、九分及び一寸一分のもの各二階級、一寸五分に達するもの一階級あり。

之を要するに二十五歳以上の胸圍は男に在りては新竹州格段に良好を呈し、女にありては臺中

新竹の兩州が冠絶してゐる。南部二州は總て劣位を占め特に女に於て不良である。臺北州は各州中の中位を辿つてゐる。

各州別の詳細を表章して、本項を攔筆すべし。

□二十五歳以上の平均胸圍(單位・分)

年 齡	男					女				
	臺北州	新竹州	臺中州	臺南州	高雄州	臺北州	新竹州	臺中州	臺南州	高雄州
二五—二九歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
三〇—三四歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
三五—三九歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
四〇—四四歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
四五—四九歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
五〇—五四歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
五五—五九歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
六〇—六四歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
六五—六九歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
七〇—七四歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
七五—七九歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
八〇—八四歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
八五—八九歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
九〇—九四歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
九五—九九歳	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三

ハ 好悪兩地域に於ける比較

衛生状態の良否兩部落に於ける胸圍を比較して見ると、男女孰れも約一寸の著差を認められ、不健康地區居住者の何如に體位の低下しつゝあるに寧ろ一驚を喫せざるを得ざる次第である、元來健康地に於ける男の胸圍は二十五歳以上者に在りては總て二尺七寸臺なるに反し、不健康地のそれは二尺六寸臺を示してゐる。又健康地の女は二十五歳乃至四十九歳間は二尺六寸臺なるに對し、不健康地のそれは男の傾向と同軌を呈し二尺五寸臺に止り又五十歳以上者に在りても兩地域居住民は各一寸臺の低下を持して前者は五寸臺、後者は四寸臺を踏襲してゐる。

□好悪兩地域別に於ける體性別胸圍比較(單位:分)

年 齡	男		女	
	良好地	不良地	良好地	不良地
二五—二九	二五	二五	二五	二五
三〇—三四	二五	二五	二五	二五
三五—三九	二五	二五	二五	二五
四〇—四四	二五	二五	二五	二五
四五—四九	二五	二五	二五	二五
五〇—五四	二五	二五	二五	二五
五五—五九	二五	二五	二五	二五
六〇—六四	二五	二五	二五	二五
六五—六九	二五	二五	二五	二五
七〇—七四	二五	二五	二五	二五
七五—七九	二五	二五	二五	二五
八〇—八四	二五	二五	二五	二五
八五—八九	二五	二五	二五	二五
差	一	一	一	一

年 齡	良好地	不良地
二五—二九	二五	二五
三〇—三四	二五	二五
三五—三九	二五	二五
四〇—四四	二五	二五
四五—四九	二五	二五
五〇—五四	二五	二五
五五—五九	二五	二五
六〇—六四	二五	二五
六五—六九	二五	二五
七〇—七四	二五	二五
七五—七九	二五	二五
八〇—八四	二五	二五
八五—八九	二五	二五
差	一	一

ニ 内地との比較

島民優良地域に於ける胸圍を内地農民のそれと比照して見ると、前項に於て島内の健否兩地帯に在る比較と同じく優良地は不良地に比し各年齢級約一寸の著差を認めたと同様、又島内優良地を内地農村と比較するときは、更に本優良地は大體六分内外の差異をもつて内地農民より低劣である。

本島優良地中新竹州の成績と、内地農民とを表章して見ると、

種 別	男		女	
	内地	新竹州	内地	新竹州
25—29	二五	二五	二五	二五
30—34	二五	二五	二五	二五
35—39	二五	二五	二五	二五
40—44	二五	二五	二五	二五
45—49	二五	二五	二五	二五
50—54	二五	二五	二五	二五
55—59	二五	二五	二五	二五
60—64	二五	二五	二五	二五
65—69	二五	二五	二五	二五
70—74	二五	二五	二五	二五
75—79	二五	二五	二五	二五
80—84	二五	二五	二五	二五
85—89	二五	二五	二五	二五
差	一	一	一	一

備考 單位は分、(一)は新竹州の劣りたるを示す。

右表を見るに新竹州は内地農村より遙かに優良なるを知るべきである、即ち男に在りては各歳級總て三分見當にて新竹州勝れ、女に在りても内地農村に劣るは僅かに四年齡級に過ぎざる状態である。而して新竹州の種族は男一〇・七三一人中四・四七五人、女一〇・九二五人中四・七六七人は廣東人にして、其の他は福建種である。即ち廣東人の割合は男は四二%、女は四四%に當る約四割強である。

次に各年齡級別本島對内地の胸圍比較表を掲出せむ。
 □本島と内地との胸圍比較(單位:分)

年 齡	男		女	
	本 島	内 地	本 島	内 地
二五—二九歳	三三	三三	三三	三三
三〇—三四歳	三三	三三	三三	三三
三五—三九歳	三三	三三	三三	三三
四〇—四四歳	三三	三三	三三	三三
四五—四九歳	三三	三三	三三	三三
五〇—五四歳	三三	三三	三三	三三
五五—五九歳	三三	三三	三三	三三
六〇—六四歳	三三	三三	三三	三三
六五—六九歳	三三	三三	三三	三三
七〇—七四歳	三三	三三	三三	三三
七五—七九歳	三三	三三	三三	三三
八〇—八四歳	三三	三三	三三	三三
八五—八九歳	三三	三三	三三	三三
九〇—九五歳	三三	三三	三三	三三

第五 身長一寸に對する體重

體質事象を直に體格に依つて測定せむとするには、身長と體重との相關比に俟たなければならぬ。身長發育の佳良なるものは或る要約、例令は特殊性素因などの影響なき限りは諸臟器は勿論、筋肉等も從つて發達し、又榮養關係も亦良好なることは想像に難からざる事實と謂ふべきである。今この體重比を算出して島民の體質位を考察せむとす。

一 全島の觀察

身長一寸は體重幾何ありやを測定して見ると、男女俱に二歳未滿は一〇〇匁に達せざるも二歳に至れば一〇〇匁を超え、以上も逐歲増量を呈し男女とも十歳には一五〇匁となり。男は十五歳、女は男よりも一年早く十四歳にして二〇〇匁並に上つて來る。而して男は四十歳に至るまで比率増加の一路を辿るに對し、女は二十一歳に於て最重極限二五八匁に達し爾後は一高一低を呈し、三十五歳乃至三十九歳級には再び最重極限二五八匁に復すれども四十歳以後は下降期に入り逐年減少しつゝ八十四歳末に於て二二一匁となつて十四歳、十五歳間の體重比と同位をもつて高年者の最輕限度をなす。

男は三十九歳末に於て極重二六八匁を示し、女の同量二五八匁より一〇匁高し爾後の五歳階級別状態を窺ふに五匁限度の減少をもつて七十四歳末に二四八匁に減じ、之を極重と比較するとき、は二〇匁の減少となりて、恰も十八、九歳間の秤量と同位である。七十五歳以上は僅かに起伏してゐる。

年 齡	實 數		年々の増加	實 數		年々の増加	男女の差
	男	女		男	女		
二五—二九歳	二五	二五		二五	二五		
三〇—三四歳	三〇	三〇		三〇	三〇		
三五—三九歳	三五	三五		三五	三五		
四〇—四四歳	四〇	四〇	(-)	四〇	四〇	(-)	
四五—四九歳	四五	四五	(-)	四五	四五	(-)	
五〇—五四歳	五〇	五〇	(-)	五〇	五〇	(-)	
五五—五九歳	五五	五五	(-)	五五	五五	(-)	
六〇—六四歳	六〇	六〇	(-)	六〇	六〇	(-)	
六五—六九歳	六五	六五	(-)	六五	六五	(-)	
七〇—七四歳	七〇	七〇	(-)	七〇	七〇	(-)	
七五—七九歳	七五	七五	(-)	七五	七五	(-)	
八〇—八四歳	八〇	八〇	(-)	八〇	八〇	(-)	
八五—八九歳	八五	八五	(-)	八五	八五	(-)	
九〇—九四歳	九〇	九〇	(-)	九〇	九〇	(-)	
九五—九九歳	九五	九五	(-)	九五	九五	(-)	

備考 (一)は「年々の増加」欄にあるものは、前年齢より低少なるを示し。又「男女の差」欄にあるものは男の劣れるを示す。

二 地方別觀察

體位の歸向特に體重比を州別として吟味することは、保健衛生の向上に重要缺くべからざる實際的研究の一である。詳言すれば發育状態と俱に榮養關係も直感することが能き、一面には内因

的の相關、即ち衛生工作の實際衛生思潮の自覺度等を推計するの津筏ともなり、交々地理的關聯による事情をも察知すべき基調ともなるからである。而して地方別體重比は體性及び年齢によつて差異を現出するから、先づ男の實際を展開して見ると、臺北州は各歳(年齢の區分は前掲出の如く出生より二十五歳未満は各歳別、二十五歳以上は五歳宛に括つて年齢級別とした、但し八十歳以上は調査人員の過少なる結果之が抽象的觀察を省き、如上二十五歳未満の二十五階級と、七十九歳までの十一階級の合計三十六階級として考察する)を通し總て全島平均位を抜いてゐる優秀振である。次に新竹州が優良を示し全島水準と同位なるは二年、平均に達せざる年齢は四、其の他の三十階年齢は悉く平均位を突破してゐる。最下位に屬するは臺南州にして平均と同位にあるは二、平均を抜くものは唯僅かに一年(五歳にて殘餘の三十三階年齢は凡て平均以下の低劣である。

□全島平均との比較(男)

種 別	年 齡
臺 北 州	(優) 各年齢級を通じて
	(優) 一歳、三歳、六歳乃至十一歳、十三歳乃至七十四歳。
新 竹 州	(同位) 零歳、二歳。
	(劣) 四歳、五歳、十二歳、七五—七九歳。
臺 中 州	(優) 十三歳乃至十九歳、七五—七九歳。
	(同位) 四歳。
臺 南 州	(劣) 零歳乃至三歳、五歳乃至十二歳、二十歳乃至七十四歳。
	(優) 五歳。
臺 南 州	(同位) 四歳、六歳。
	(劣) 零歳乃至三歳、七歳乃至七十九歳。

種 別 年 齡

高雄州 (優) 零歳、一歳、九歳、二十四歳、二十五—二十九歳、三十五—三十九歳。
(同位) 四歳、十六歳、二十二歳、四十一—四十四歳。
(劣) 二歳、三歳、五歳乃至八歳、十歳乃至十五歳、十七歳乃至二十一歳、二十三歳、三十一—三十四歳、四十五歳乃至七十九歳。

之を要するに、臺北州の各歳佳良なるは調査地域は概ね島都臺北の近郊にあるをもつて衛生設備の完全と民衆の健康思想に鍛練せられてゐる反映なりと見るを得べく。又新竹州の良好なるは概して地理的影響に外なかるべく、或は種族關係も好因の一として看過することが能きない。臺南、高雄兩州の振はざるは地理的に惠まるゝ程度が中北部に比し薄きと、風土病の蔓延其他衛生的思潮の低級にあるものゝ如し。而して臺中州は先づ地理的に中心地を爲すの外、保健状態も大體中位に在るものと謂ふべき歟。

尙臺中州は少年期には甚だ優勢を呈すれども、幼年期及び成人期に入るときは比較的劣惡に向する傾向あり。又臺南州に在りては五歳を中心とした幼年期には體格美を發揮すれども其他の嬰兒期並に少年級以上に達するときには他州に比し遜色あるを否むことが出來ない。高雄州は乳幼兒並に壯年級の體格は優良なれども、少年級及び初老級を經過すると榮養上に缺陷を寄與するものゝ如くである。

翻つて女の體重比を窺ふに、男に於けるに反し比較的複雑化し各年齢に依る歸嚮が甚だ交錯を呈してゐる。然れども肉體美としては臺北州女は男と同軌にして佳良なり、かつ男に在りては第二位に良好なる新竹州とは可なり逕庭を認めしたが、女に在りては臺北、新竹相伯仲し何れが「あやめ」かしようぶか決し兼ねる状態である、詳言すれば全島の水準點より低き年齢級は兩州孰れも三

年、同位にあるは臺北州は二十三歳と三十歳乃至三十四歳の二年に對し、新竹州は二歳乃至四歳の三年なるをもつて平均以上の年齢級は前者は三十一年となり、後者は三十年となつて大體優劣なきものである。臺南、高雄の兩州も概ね甲乙なく、即ち平均と同位にあるは各州一年宛、平均以上にあるは臺南州は三年、高雄州は五年を示して前州よりは二年齡優勢を占めてゐる譯である。従つて水準位以下にあるは臺南州は三十二年、高雄州は三十年となる。

□全島平均との比較(女)

種 別	年 齡
臺北州	(優) 零歳乃至二十歳、二十二歳、二十四歳、三十五—三十九歳、四十五歳乃至七十九歳。
	(同位) 二十三歳、三十歳—三十四歳。
新竹州	(劣) 二十一歳、二十五歳—二十九歳、四十歳—四十四歳。
	(優) 零歳、一歳、七歳乃至十八歳、二十歳乃至七十九歳。
臺中州	(同位) 二歳乃至四歳。
	(劣) 五歳、六歳、十九歳。
臺南州	(優) 十一歳乃至二十歳、三十五歳乃至七十九歳。
	(同位) 八歳、九歳、二十一歳。
高雄州	(劣) 零歳乃至七歳、十歳、二十二歳乃至三十四歳。
	(優) 四歳、九歳、十九歳。
高雄州	(同位) 五歳。
	(劣) 零歳乃至三歳、六歳乃至八歳、十歳乃至十八歳、二十歳乃至七十九歳。
高雄州	(優) 零歳、一歳、三歳、十歳、二十三歳。
	(劣) 二歳。
高雄州	(同位) 四歳乃至九歳、十一歳乃至二十二歳、二十四歳乃至七十九歳。
	(劣) 二歳。

女の體重比の狀勢を通觀するに北部は乳幼兒級及び成年期を優秀とするに對し、南部は之に反する傾向が認められる、就中幼年時代は南部に在りても良好なる風潮が見える、之は多くは纖弱なり母性より生出したものであるから夭死を免れたものは比較的健體兒が生存してゐるからであらう、臺中州は南北兩部の相對的影響によつて幼年期は寧ろ不良なる成績となつてゐるが少年時代は概して良好である、三十五歳以上の成人と老年者とは北部と同じく佳良である。

更に年齢別(三十六階級)に依る體重比の最高、最低を一瞥すると男の最高に在りては臺北州は全年齡級の約半十九年を占め四五二二%に當る優勢を示してゐる、次に新竹州は四二九%をもつて臺北州と伯仲し、臺中州は實數に於ては三階級七一%にして臺南、高雄兩州は何れも二四%の低率である、又男の最低を見るに臺南州(三六六%)を最とし、臺中州も割合下位にありて三四二%即ち三分一強を占め、第三位は高雄州の二六八%にして、新竹州は僅に二四%の低率に過ぎない、臺北州には最低位にある年齢を認めず。

女の最高を呈するは臺北州の十七年齢即ち四四七%の約半に當り、新竹州は四二一%を示して之に次ぐ、亞いで臺中州、高雄州の順位をなせども其の比率は寥々たるもので前者は七九%、後者は五三%の低率に止まる、臺南州には最高年齢が無い、又女の最低方面を窺ふに最高なき臺南州は五八六%をもつて最とし、高雄、臺中の兩州之に亞ぐ、而して前州は二四四%、後州は一四六%の比率で臺北州には男の傾向と同じく最低年齢級を認めない。

尙最重、最輕兩端の差異を觀察すると男に在りては零歳乃至十二歳は十歳以下の少差、就中九歳は五々の微量に過ぎざるも、十三歳以上に在りては二十五々に達するものがある、女の狀態も

大體男と大同小異にあれども七歳に至れば既に十々の著差を認むるにいたり、發育の旺盛なる時期十三歳以上にはありては二十々以上の差異となり、三十五歳以上は男の差異よりも大きい傾向がある、その詳細を表示するときは次表の通りである。

□ 體重比の高低兩極(單位%)

年 齡	男		女	
	最 重	最 低	最 重	最 低
0	臺南	臺南	臺南	臺南
1	臺南	臺南	臺南	臺南
2	臺南	臺南	臺南	臺南
3	臺南	臺南	臺南	臺南
4	臺南	臺南	臺南	臺南
5	臺南	臺南	臺南	臺南
6	臺南	臺南	臺南	臺南
7	臺南	臺南	臺南	臺南
8	臺南	臺南	臺南	臺南
9	臺南	臺南	臺南	臺南
10	臺南	臺南	臺南	臺南
11	臺南	臺南	臺南	臺南
12	臺南	臺南	臺南	臺南
13	臺南	臺南	臺南	臺南
14	臺南	臺南	臺南	臺南
15	臺南	臺南	臺南	臺南
16	臺南	臺南	臺南	臺南
17	臺南	臺南	臺南	臺南
18	臺南	臺南	臺南	臺南
19	臺南	臺南	臺南	臺南
20	臺南	臺南	臺南	臺南
21	臺南	臺南	臺南	臺南
22	臺南	臺南	臺南	臺南
23	臺南	臺南	臺南	臺南
24	臺南	臺南	臺南	臺南
25	臺南	臺南	臺南	臺南
26	臺南	臺南	臺南	臺南
27	臺南	臺南	臺南	臺南
28	臺南	臺南	臺南	臺南
29	臺南	臺南	臺南	臺南
30	臺南	臺南	臺南	臺南
31	臺南	臺南	臺南	臺南
32	臺南	臺南	臺南	臺南
33	臺南	臺南	臺南	臺南
34	臺南	臺南	臺南	臺南
35	臺南	臺南	臺南	臺南

年 齡	男		女	
	最 重	最 低	最 重	最 低
一五	三三	二五	三〇	二二
一六	三三	二五	三〇	二二
一七	三三	二五	三〇	二二
一八	三三	二五	三〇	二二
一九	三三	二五	三〇	二二
二〇	三三	二五	三〇	二二
二一	三三	二五	三〇	二二
二二	三三	二五	三〇	二二
二三	三三	二五	三〇	二二
二四	三三	二五	三〇	二二
二五	三三	二五	三〇	二二
二六	三三	二五	三〇	二二
二七	三三	二五	三〇	二二
二八	三三	二五	三〇	二二
二九	三三	二五	三〇	二二
三〇	三三	二五	三〇	二二
三一	三三	二五	三〇	二二
三二	三三	二五	三〇	二二
三三	三三	二五	三〇	二二
三四	三三	二五	三〇	二二
三五	三三	二五	三〇	二二
三六	三三	二五	三〇	二二
三七	三三	二五	三〇	二二
三八	三三	二五	三〇	二二
三九	三三	二五	三〇	二二
四〇	三三	二五	三〇	二二
四一	三三	二五	三〇	二二
四二	三三	二五	三〇	二二
四三	三三	二五	三〇	二二
四四	三三	二五	三〇	二二
四五	三三	二五	三〇	二二
四六	三三	二五	三〇	二二
四七	三三	二五	三〇	二二
四八	三三	二五	三〇	二二
四九	三三	二五	三〇	二二
五〇	三三	二五	三〇	二二

各州別年齢に分ちたる身長一寸に對する體重を及單位にて表章すれば、左表の通りである。

□身長一寸に對する體重(單位々)

性 及 年 齡	全 島		北 州		新 州		中 州		南 州		高 州	
	最 重	最 低	最 重	最 低	最 重	最 低	最 重	最 低	最 重	最 低	最 重	最 低
〇	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二
一	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二
二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二
三	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二
四	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二
五	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二
六	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二
七	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二
八	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二
九	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二
一〇	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二	二九	二二

性 及 年 齡	男										全 島	臺 北 州	新 竹 州	臺 中 州	臺 南 州	高 雄 州	
	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇							
九 歲	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	1	1	1	1	1	1	1
〇 歲	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	1	1	1	1	1	1	1
一 歲	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	1	1	1	1	1	1	1
二 歲	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	1	1	1	1	1	1	1
三 歲	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	1	1	1	1	1	1	1
四 歲	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	1	1	1	1	1	1	1
五 歲	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	1	1	1	1	1	1	1
六 歲	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	1	1	1	1	1	1	1
七 歲	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	1	1	1	1	1	1	1
八 歲	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	1	1	1	1	1	1	1
九 歲	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	1	1	1	1	1	1	1
十 歲	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	1	1	1	1	1	1	1
全 歲	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	105	105	105	105	105	105	105

性 及 年 齡	女										全 島	臺 北 州	新 竹 州	臺 中 州	臺 南 州	高 雄 州	
	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇							
九 歲	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	1	1	1	1	1	1	1
〇 歲	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	1	1	1	1	1	1	1
一 歲	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	1	1	1	1	1	1	1
二 歲	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	1	1	1	1	1	1	1
三 歲	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	1	1	1	1	1	1	1
四 歲	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	1	1	1	1	1	1	1
五 歲	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	1	1	1	1	1	1	1
六 歲	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	1	1	1	1	1	1	1
七 歲	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	1	1	1	1	1	1	1
八 歲	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	1	1	1	1	1	1	1
九 歲	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	1	1	1	1	1	1	1
十 歲	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	1	1	1	1	1	1	1
全 歲	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	105	105	105	105	105	105	105

性及年齢	全島	臺北州	新竹州	臺中州	臺南州	高雄州
二 三 歲	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九
二 四 歲	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九
二 五 一 二 九 歲	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九
三 〇 一 三 四 歲	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九
三 五 一 三 九 歲	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九
四 〇 一 四 四 歲	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九
四 五 一 四 九 歲	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九
五 〇 一 五 四 歲	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九
五 五 一 五 九 歲	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九
六 〇 一 六 四 歲	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九
六 五 一 六 九 歲	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九
七 〇 一 七 四 歲	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九
七 五 一 七 九 歲	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九
八 〇 一 八 四 歲	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九
八 五 一 八 九 歲	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九
九 〇 一 九 四 歲	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九
九 五 一 九 九 歲	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九	二五九

三 好惡兩地域に於ける比較

不健區の健區に勝るべき事由なきは當然であるが、其の差異の程度を考察するは不健區の刷新對策上緊要事であり、かつ健、不健の由て來る因果關係を討究する上からも等閑視することの出

來ない問題である。則ち本調査は衛生事象を歸納的に解決すると共に一面には解決せざるを得ざる問題をも提出するものである。

今男の實情を展開して見ると、零歳乃至十二歳間は健否兩區に於ける差異甚だ僅少である、即ち四歳、六歳、七歳の三年は兩地區全く同位を示してゐる。零歳は二匁、一歳乃至三歳の幼兒期は三匁、五歳は一匁の少差に過ぎぬ、これは乳幼兒時代には哺乳又は養育の態様が略ぼ同一の要約にあるからだと推斷せらる。八歳以上の學齡期にあるものも三匁の差異を維持してゐる。十四歳乃至十九歳の發育高潮期に達すると、兩地區の體格が格段に相異して來て十一匁内外の過差を呈して、不健區の人體生育に甚大なる悪影響があることが明かる。即ちその原因は或は幼兒時代の虛弱不良の體質が青年期に延長したものの、尙筋肉の發達榮養上に障礙が伏在してゐることが想像に難くない。二十歳に至ればその曲線が幾分近接する傾向はあるが六匁内外の差異であるから、乳幼兒期に比するとまだく高き隔差を謂はなければならぬ。四十五歳以上に達し幼兒期の少差に戻つて來る、六十五歳以上の十年間は全く同位である、之は不健區に於ても頑健なる體軀の持主のみが生存して居るからだとも見られる。七十五歳以上の高年者になると、その較差が一匁大を呈するに到るが、之は検査人員の少數なためで偶然の歸結である。

女の狀態を見ると大體男の歸向と踴躍たるものがあるが、又差異の甚だしいものがある。詳言すると乳幼兒期、春機發動期、壯年期を通じて能く男と同軌を辿つてゐるが、四十歳乃至六十歳未滿の二十年間になると俄然形勢一變し不良地は十匁内外の減差を呈露し、男の同年齡期に於ける兩地域の平衡的現象に對して異常なる體性的異變を謂ふべきである。而して六十歳以上に達する

と又還元して男の傾向に復歸して來る。
その詳細を表示すると、次表の如くである。

□好悪兩地帯に於ける身長一寸に對する體重比較(單位:々)

年 齡	男		差	女		差
	良好地	不良地		良好地	不良地	
0	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
1	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
2	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
3	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
4	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
5	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
6	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
7	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
8	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
9	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
10	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
11	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
12	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
13	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
14	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
15	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
16	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
17	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
18	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
19	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
20	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
21	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
22	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
23	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
24	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
25	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
26	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
27	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
28	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
29	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
30	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
31	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
32	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
33	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
34	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
35	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
36	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
37	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
38	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
39	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
40	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0

年 齡	男		差	女		差
	平均	優良地		平均	優良地	
0	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
1	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
2	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
3	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
4	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
5	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
6	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
7	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
8	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
9	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
10	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
11	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
12	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
13	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
14	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
15	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
16	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
17	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
18	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
19	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
20	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
21	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
22	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
23	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
24	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
25	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
26	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
27	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
28	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
29	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
30	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
31	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
32	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
33	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
34	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
35	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
36	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
37	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
38	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
39	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0
40	1.0	1.0	0	1.0	1.0	0

備考 (一)は優良地の劣れるを示す。

四 内地との比較

内地農民の體重比極限線は男に在りては二十四歳二八一六々にして、島民の三十歳乃至三十四歳級(二六七二々)のそれに比し一四四々高い。若し夫れ本島の最高二六七二々乃至三四歳程度を

内地に需むると十八歳二六七七夕又は六十歳乃至六十四歳二六五七夕と匹敵してゐる譯で、體重比としては逕庭なきも年齢關係に在つては過差あることが明かる。即ち内地の十八歳は體重比の順位から見ると十四位であるから、島民の首位は内地の十四、十五位の間に介在することゝ發育榮養上寒心に堪えない。島民は唯零歳に於て僅に勝れたる外、他の各歳は總て劣つてゐる、就中十七歳は二三夕の低劣で最大の極差である、發育の高調時たる十四歳乃至十八歳間は各年二十夕内外の劣少なるは、單に民族の相關とのみは請取れぬ筋合である。内地第二位は三十五歳乃至三十九歳級にして、之は島民も同齡であるが一四夕の低劣である、内地第三位は三十歳乃至三十四歳級で本島の首位としてゐる年齢級である。

次に女の狀勢を窺ふに内地の首位は二十歳の二六九夕で本島の首位たる三十五歳乃至三十九歳級二五八夕と比較すると十一夕の少差であるが、男と同様に年齢關係にては十五、六歳の「ひらき」が生じて来る、島民の二十歳は二五七夕を示して第七位である、體重比の他和線を成人期とするならば内地人は非常に早熟なる次第である。内地の第二位は第一位に亞いで二十一歳であるに對し島民は二十五歳乃至二十九歳級で稍々接近して来る。内地第三位は齊然として第二位に亞ぐ二十歳者であつて、島民の二十三歳なるに對し全く近接し體重比も内地側十夕の差増である。男と同じく島民の勝れたるは纔に零歳と八十五歳以上の高老若級に過ぎぬ状態である。而して島民の差減を觀るに十一歳までは各年十夕以下なれども十二歳乃至二十四歳間は各年十夕以上の差減となり、就中過差の冠たるものは十五歳にして三十五夕に逕する。事實妙齡の女子を概觀するに内地人の豊頬肥胖なるに反し、島女は孀々乎として細腰楚々たる風姿を爲すもの多きは以て之を證

左とすることに足るべし。

島民體重比の低劣なるは前彼の如くであるから、島民男の冠絶せる三十歳乃至三十四歳級(二六七二夕)を内地人女と對等せしむるときは第六位二十三歳二六七五夕どころである。故に島男第二位は内女第八位(三五―三九歳)と全く同位にて俱に二六六一夕である。かくて島民は一見身長大より比較的偉大の觀あれども、體重比に換算して之を考察するときには内地人に遠く及ばざるを知らべきである。

其の詳細を表章するときは、次表の通りである。

□身長一寸に對する體重内地との比較(單位夕)

年 齡	男			女		
	本島	内地	地	本島	内地	地
零	六九二	一〇〇〇	六三三	八三三	一〇〇〇	七三三
一	六八四	一一〇〇	六二五	八二五	一一〇〇	七二五
二	六八五	一一〇〇	六二五	八二五	一一〇〇	七二五
三	六八五	一一〇〇	六二五	八二五	一一〇〇	七二五
四	六八五	一一〇〇	六二五	八二五	一一〇〇	七二五
五	六八五	一一〇〇	六二五	八二五	一一〇〇	七二五
六	六八五	一一〇〇	六二五	八二五	一一〇〇	七二五
七	六八五	一一〇〇	六二五	八二五	一一〇〇	七二五
八	六八五	一一〇〇	六二五	八二五	一一〇〇	七二五
九	六八五	一一〇〇	六二五	八二五	一一〇〇	七二五
一〇	六八五	一一〇〇	六二五	八二五	一一〇〇	七二五
一〇	六八五	一一〇〇	六二五	八二五	一一〇〇	七二五
一〇	六八五	一一〇〇	六二五	八二五	一一〇〇	七二五

年 齡	男		女	
	本島	内地	本島	内地
一三歳	一七九	一六九	一八〇	一七五
一四歳	一八六	一七七	一八七	一八二
一五歳	一九三	一八四	一九四	一九〇
一六歳	二〇〇	一九一	二〇一	一九六
一七歳	二〇七	一九八	二〇八	二〇三
一八歳	二一四	二〇五	二一五	二一〇
一九歳	二二一	二一二	二二二	二一七
二〇歳	二二八	二一九	二三〇	二二四
二一歳	二三五	二二六	二三六	二三一
二二歳	二四二	二三三	二四三	二三八
二三歳	二四九	二四〇	二五〇	二四四
二四歳	二五六	二四七	二五七	二五一
二五歳	二六三	二五四	二六四	二五八
二六歳	二七〇	二六一	二七一	二六五
二七歳	二七七	二六八	二七八	二七二
二八歳	二八四	二七五	二八五	二七九
二九歳	二九一	二八二	二九二	二八六
三〇歳	二九八	二八九	三〇〇	二九三
三一歳	三〇五	二九六	三〇六	三〇〇
三二歳	三一二	三〇三	三一三	三〇七
三三歳	三一九	三一〇	三二〇	三一四
三四歳	三二六	三一七	三二七	三一五
三五歳	三三三	三二四	三三四	三二二
三六歳	三四〇	三三一	三四一	三二九
三七歳	三四七	三三八	三四八	三三六
三八歳	三五四	三九五	三五五	三四三
三九歳	三六一	三六二	三六三	三四〇
四〇歳	三六八	三六九	三六九	三四七
四一歳	三七五	三七〇	三七〇	三五四
四二歳	三八二	三七七	三八二	三六一
四三歳	三八九	三八四	三八九	三五七
四四歳	三九六	三九一	三九六	三六四
四五歳	四〇三	三九八	四〇三	三七〇
四六歳	四一〇	四〇五	四一〇	三七七
四七歳	四一七	四一二	四一七	三八四
四八歳	四二四	四一九	四二四	三九〇
四九歳	四三一	四二六	四三一	三九七
五〇歳	四三八	四三三	四三八	四〇三
五一歳	四四五	四四〇	四四五	四一〇
五二歳	四五二	四五七	四五二	四一七
五三歳	四五九	四六四	四五九	四二四
五四歳	四六六	四七一	四六六	四三〇
五五歳	四七三	四七八	四七三	四三七
五六歳	四八〇	四八五	四八〇	四四四
五七歳	四八七	四九二	四八七	四五〇
五八歳	四九四	四九九	四九四	四五七
五九歳	五〇一	五〇六	五〇一	四六四
六〇歳	五〇八	五一三	五〇八	四七〇
六一歳	五一五	五二〇	五一五	四七七
六二歳	五二二	五二七	五二二	四八四
六三歳	五二九	五三四	五二九	四九〇
六四歳	五三六	五四一	五三六	四九七
六五歳	五四三	五四八	五四三	五〇四
六六歳	五五〇	五五五	五五〇	五一〇
六七歳	五五七	五六二	五五七	五一七
六八歳	五六四	五六九	五六四	五二四
六九歳	五七一	五七六	五七一	五三〇
七〇歳	五七八	五八三	五七八	五三七
七一歳	五八五	五九〇	五八五	五四四
七二歳	五九二	五九七	五九二	五五〇
七三歳	五九九	六〇四	五九九	五五七
七四歳	六〇六	六一一	六〇六	五六四
七五歳	六一三	六一八	六一三	五七〇
七六歳	六二〇	六二五	六二〇	五七七
七七歳	六二七	六三二	六二七	五八四
七八歳	六三四	六三九	六三四	五九〇
七九歳	六四一	六四六	六四一	五九七
八〇歳	六四八	六五三	六四八	六〇四
八一歳	六五五	六六〇	六五五	六一〇
八二歳	六六二	六六七	六六二	六一七
八三歳	六六九	六七四	六六九	六二四
八四歳	六七六	六八〇	六七六	六三〇
八五歳	六八三	六八七	六八三	六三七
八六歳	六九〇	六九四	六九〇	六四四
八七歳	六九七	七〇〇	六九七	六五〇
八八歳	七〇四	七〇七	七〇四	六五七
八九歳	七一〇	七一三	七一〇	六六四
九〇歳	七一七	七二〇	七一七	六七〇
九一歳	七二四	七二七	七二四	六七七
九二歳	七三一	七三四	七三一	六八四
九三歳	七三八	七四〇	七三八	六九〇
九四歳	七四五	七四七	七四五	六九七
九五歳	七五二	七五四	七五二	七〇四

備考 (十)は本島の優れたるを示す。

第六 體重別人口

九〇—九四歳	三三〇	二四〇	六	二四九	二〇六
九五—九九歳	二五七	二〇一	六	二〇五	一〇六

年齢關係を顧慮することなく、單に體重より觀たる島民の體格的人口を攻究せむとするものである。即ち島民を體重順に整列せしめ、謂はゆる體重の度數分布の歸嚮を觀察せむと欲するものである。

一 全島の觀察

體重は既述のやうに各性に依つて差異があるから、先づ男の傾向から觀察を進めて見る。
 [男の状態] 島民體重の最多を占むるは十三貫以上十四貫未満以下單に十三貫と稱す、其の他の貫目皆之に同じにして、總調査人員の約一割三分に當り、十九歳乃至二十一歳の壯年期に屬する體量に匹敵してゐる。之に亞ぐは十四貫を有する者で總員の二割二分を占め、第三位は十二貫にて九分に當つてゐる。即ち以上一割内外を占むる十二貫乃至十四貫を有する者は總人員の三分一強(三割四分)を示すのである。

一貫乃至五貫級の者はこれ又總人員の三分一(三割一分弱)であるから、其の他の體重のものが又三分一に當つて來る譯である。而して三貫臺の者と十五貫臺の者は何れも約八%にて相伯仲し、其の他二貫と四貫、五貫と十一貫、七貫と十六貫、一貫と十貫者とが又相似の間にある。

寡少なるは十七貫以上と、二貫未満である乳幼児級、其の他は八貫乃至十貫の者である。
 [女の狀態] 男に比し一貫目輕き十二貫臺にある者最多にして、其の比率も男の割合と同じく一割三分強を占めてゐる。之に亞ぐは十一貫、十三貫の順位をなしてゐる、以上の十一貫乃至十三貫を有する者は總人員の三割五分強に該るのである。

十四貫臺になると五八%に激減して、其の比率は男(一二%)の約半に達せず、十五貫臺に上ると更に半減して三%に過ぎない。

之を要するに體重の中堅をなすものは、男に在りては十二貫乃至十三貫の所有者である。又女は十一貫乃至十三貫臺なれば青春期十七歳以上に當るのである。

次に體重別人口を順位を以て表章するときは、左記の如くである。

順位	男	女	順位	男	女	順位	男	女
一	三三	三三	一	一	一	一	一	一
二	四四	二二	二	二	二	二	二	二
三	三三	三三	三	三	三	三	三	三
四	三三	三三	四	四	四	四	四	四
五	三三	三三	五	五	五	五	五	五

(備考) 詳細は本節三 好悪兩地區に於ける體重別人口比較中優良地の部を参照あるべし。

二 地方別觀察

各州とも十六貫以上の肥大者は比較的少數であるから、其の傾向も自ら同軌を辿つてゐること

は各性を通じ一様である。而して最多體重の第三位までは概ね全島平均の動向に照應してゐるが、第四位以下は各性及び地方によつて差異が認めらるゝから、州別に略敘して見ると。

1 臺北州 全島最多は十三貫臺なるに對し、本州は一貫上の十四貫を第一位とし、第二位を十三貫級として全島平均と交互に相反してゐる、これと同位をなすは新竹州である。第三位は平均と同じく十二貫であつて臺南、高雄兩州も之に屬してゐる。十五貫臺が第四位で新竹州の第三位より劣り、臺南高雄兩州の孰れも第七位よりは迥に勝つてゐる。平均の順位と同じきは十六貫以上の最重を除けば第三、第六、第十一、第十二の四位のみである。

男に反し女の歸向は第十二、第十三位の順位が全島平均と交互に入替つてゐる外、他は全く同型を呈してゐる。其の比率に在りても大差あらず。

2 新竹州 兩性を通じて本州は全島平均順位と大差あり、詳言すれば全島平均順位と合致するは男に在りては四七、八、一〇の四位、女に在りても一、九、一一、一二の四順位に過ぎない、但し十六貫以上は各州概ね貫目に比例して漸減するから之を省いて觀察した。

男の首位と次位は臺北と同軌、三位は十五貫臺にて他州に比し迥に高重に過ぐ、即ち十五貫は臺北州にては四位、臺中州は八位、臺南、高雄の兩州は第七位を占めてゐる状態である。第九位にある十六貫臺は臺北州にては十一位、高雄州十二位、臺中州十三位、臺南州十四位にして本州の體格は特に優秀なるを直覺せしめる。

女の第一位は全島平均と同じく十二貫臺なるは各州と同軌(臺中州に限り十一貫臺にあれども、其の比率に於ては總員の約一割四分を占め甚だ高し。第二位にあるは臺中州の十二貫臺、臺北、

臺南、高雄の三州は全島平均と同量にて十一貫臺にあれども本州は十三貫臺にて總員の二割二分強を示してゐる。又二三貫臺にある幼年級者も四五位を占めてゐることは衛生の尺度から見ても確かに良好なるを物語つてゐる。

3 臺中州 第十四位乃至第二十位間は男女孰れも全島平均と同順位を呈してゐる。而かもかく順位の繼續長期に及んで水準位と雁行してゐるのは本州のみの現象である、洵に中位州であることが得心できる。而して女に在りては概ね各順位とも平均に合致し、僅かに第一位と二位、第十二位と十三位とが交互に入替はるのみである。男は女に反し平位と同位にあるは僅少にして一、四十の三位に過ぎない。

4 臺南州 本州の第四位までは平均と合致し第五位は二貫臺の幼兒級に屬し、第六位は又平均と同一にて四貫臺である。其の他平均と同位にあるは十位の六貫臺である、最も第十位は臺北州の十一貫臺を除けば他の各州は總て六貫臺である。十五貫以上級は他州の如く漸減する状態は同揆を呈する。

女の傾向は大體全島平均と吻合してゐるが第三、四位が交互に入替つてゐる、即ち平均第四位の十三貫臺が本州の四位となるは體量の低劣なるを證するものと謂ふべし。其の他平均と合致せざるは第八乃至十位及十三位等である。

5 高雄州 全島平均と其の順位が同軌を呈するもの多く、特に男に在りて第四位に至る分布度の同型なるは本州と臺南州とである。女の分布度に到りては臺南州と全く同型なりと謂ふべく、只第十三、十四の兩順位が交互に上下するに止まつてゐる。元來兩州は地理的條件に於ても大差

なく、又民度に於ても逕庭なきを證左するものと謂ふべき乎。

次に地方別に依る體重別人口の實數と千分比とを表章するときには次表の如くである。

□體重別人口(男)

體 重	臺 北		新 竹		臺 中		臺 南		高 雄	
	實 數	千 分 比	實 數	千 分 比	實 數	千 分 比	實 數	千 分 比	實 數	千 分 比
總	16,300	1,000.0	11,211	1,000.0	9,551	1,000.0	9,566	1,000.0	16,854	1,000.0
一	3,300	20.3	2,111	18.8	2,551	26.7	2,566	27.0	3,211	19.1
二	3,300	20.3	2,111	18.8	2,551	26.7	2,566	27.0	3,211	19.1
三	3,300	20.3	2,111	18.8	2,551	26.7	2,566	27.0	3,211	19.1
四	3,300	20.3	2,111	18.8	2,551	26.7	2,566	27.0	3,211	19.1
五	3,300	20.3	2,111	18.8	2,551	26.7	2,566	27.0	3,211	19.1
六	3,300	20.3	2,111	18.8	2,551	26.7	2,566	27.0	3,211	19.1
七	3,300	20.3	2,111	18.8	2,551	26.7	2,566	27.0	3,211	19.1
八	3,300	20.3	2,111	18.8	2,551	26.7	2,566	27.0	3,211	19.1
九	3,300	20.3	2,111	18.8	2,551	26.7	2,566	27.0	3,211	19.1
一〇	3,300	20.3	2,111	18.8	2,551	26.7	2,566	27.0	3,211	19.1
一一	3,300	20.3	2,111	18.8	2,551	26.7	2,566	27.0	3,211	19.1
一二	3,300	20.3	2,111	18.8	2,551	26.7	2,566	27.0	3,211	19.1
一三	3,300	20.3	2,111	18.8	2,551	26.7	2,566	27.0	3,211	19.1
一四	3,300	20.3	2,111	18.8	2,551	26.7	2,566	27.0	3,211	19.1
一五	3,300	20.3	2,111	18.8	2,551	26.7	2,566	27.0	3,211	19.1
一六	3,300	20.3	2,111	18.8	2,551	26.7	2,566	27.0	3,211	19.1
一七	3,300	20.3	2,111	18.8	2,551	26.7	2,566	27.0	3,211	19.1
一八	3,300	20.3	2,111	18.8	2,551	26.7	2,566	27.0	3,211	19.1
一九	3,300	20.3	2,111	18.8	2,551	26.7	2,566	27.0	3,211	19.1
二〇	3,300	20.3	2,111	18.8	2,551	26.7	2,566	27.0	3,211	19.1

□體重別人口(女)

體 重	北 新		中 新		南 新		高 雄	
	實 數	千 分 比	實 數	千 分 比	實 數	千 分 比	實 數	千 分 比
總	九,六〇〇	100.0	九,六〇〇	100.0	九,六〇〇	100.0	九,六〇〇	100.0
一	三,七〇〇	38.6	三,七〇〇	38.6	三,七〇〇	38.6	三,七〇〇	38.6
二	三,〇〇〇	31.2	三,〇〇〇	31.2	三,〇〇〇	31.2	三,〇〇〇	31.2
三	二,〇〇〇	20.8	二,〇〇〇	20.8	二,〇〇〇	20.8	二,〇〇〇	20.8
四	一,〇〇〇	10.4	一,〇〇〇	10.4	一,〇〇〇	10.4	一,〇〇〇	10.4
五	七〇〇	7.3	七〇〇	7.3	七〇〇	7.3	七〇〇	7.3
六	五〇〇	5.2	五〇〇	5.2	五〇〇	5.2	五〇〇	5.2
七	四〇〇	4.2	四〇〇	4.2	四〇〇	4.2	四〇〇	4.2
八	三〇〇	3.1	三〇〇	3.1	三〇〇	3.1	三〇〇	3.1
九	二〇〇	2.1	二〇〇	2.1	二〇〇	2.1	二〇〇	2.1
一〇	一〇〇	1.0	一〇〇	1.0	一〇〇	1.0	一〇〇	1.0
一一	八〇	0.8	八〇	0.8	八〇	0.8	八〇	0.8
一二	七〇	0.7	七〇	0.7	七〇	0.7	七〇	0.7
一三	六〇	0.6	六〇	0.6	六〇	0.6	六〇	0.6
一四	五〇	0.5	五〇	0.5	五〇	0.5	五〇	0.5
一五	四〇	0.4	四〇	0.4	四〇	0.4	四〇	0.4
一六	三〇	0.3	三〇	0.3	三〇	0.3	三〇	0.3
一七	二〇	0.2	二〇	0.2	二〇	0.2	二〇	0.2
一八	一〇	0.1	一〇	0.1	一〇	0.1	一〇	0.1
一九	五	0.05	五	0.05	五	0.05	五	0.05
二〇	一	0.01	一	0.01	一	0.01	一	0.01

三 好悪兩地區の比較

體重の分布状態を一瞥しただけで、其の住民の健否關係が察知せらるゝ。今健康地、不健康地の體重分散度状態を見るに兩性に依つて差等があるから、先づ男の狀況から觀察を進めやう。

〔男〕 最多、最少の兩極にある人口は健區、不健區に依りて差異なく、孰れも最多の順位は十三、十四、十二、及び三貫臺となつてゐる、而し以上四位に至る比率を合算すると健區は四二・三%に對し不健區は四二・六%を示して過差なきも、各順位に分ちて再考すると第一位にある十三貫臺は〇・六%健區低く、第二位の十四貫臺は第一位に反し健區却つて〇・五%高し。之は一、二位の較差健區に在りては〇・三%に對し不健區は健區に倍獲して一・四%を示したからである、即ち體重の不均衡的事象に基因してゐる、又第三位の十二貫臺を比較すると更に一・二%の過差に上りて健區低率なれども、第四位の三貫臺になると又又動向を換へ健區却つて一・〇%高き現象を呈露するは不健區の影響の甚大なることが首肯される。第十七位以下寡少級の順位は全く同型を辿つてゐるが其の比率は健區の二・六%に對し、不健區は約半の一・五%にして高齢者の稀少なることを裏書きするものと謂へる。

健區第五位の十五貫臺、第六位の四貫臺は不健區に於ては交互に轉換して、不健區にては高量級の低率なることが窺はれる、而して十五貫臺の比率は健區は八・〇%、不健區は六・九%である。健區の七、八位は不健區の八、七位となつて相反し、九十位は全く同位。十一、十六貫臺、十二位七貫臺は更に位置を替へ不健區にては十二、十一位となる、之を比率から觀察すると十六貫臺は健區に於て〇・六%勝れ、七貫臺は之に反して健區〇・六%劣れるは興味ある對照ならずや。十三位は兩地區孰れも十貫臺とし、十四乃至十六位は健區にては一、八、九貫なるに對し不健區は八、九、一貫とし

て體重別男の部に於ける唯一の波瀾である、即ち不健區に於ては一貫臺に在る乳兒の少數なる反映なりとする。

翻つて女の場面を展望して見ると男に在りては初位乃至四位は兩地區同順位を爲せども、女は第一位と第二位、第三位と第四位が交互に轉換してゐる。詳言すれば健區の第一位とする十二貫臺は總員の一割三分を占むるに對し不健區に在りては一割四分弱に當り、其の割合より觀察すれば健區の一位は不健區の二位よりも低下してゐる事となり、不健區第一位の十一貫臺は一割四分強の多數である。かく不健區は健區より低重者に集中してゐること、其の他は高重者の少數なる相對的關係であらう。次に五乃至七位の三階は此彼同位を示して其の比率は健區の二二%、不健區一九%である。来る第八乃至第十位は健區の十四五、九貫の順位なるに對し不健區は五、九、十四貫の序次となつて五、九の兩貫臺は健區劣り、十四貫臺は健區〇・八%の優秀を示してゐる、之を要するに高重者は健區に多きを物語つてゐる。第十一位は又兩地區同位にて六貫臺である。

第十二乃至第十五位の四階は一、八、七、十五貫級にして健區は幼年者の一貫級と高重の十五貫級が多數である、即ち一貫級は健區〇・一%勝れ七八貫兩級は健區一・一%劣り、更に十五貫の高重級は健區約一%高し。次に第十六乃至第二十位は男の傾向と同じく兩地區全く同順位を爲すも男の場合の如く比率は健區の二一%に致し不健區は約半に該る一三%の低位にあるは男と同因なるは容疑の餘地あらざるべし。

次に健、不健地區に於ける體重別人口の詳細を表示するときは、次表の如くである。

□好悪兩地區に於ける體重別人口比較

體 重	男		女	
	實數	不良地(千分比)	實數	不良地(千分比)
總	50,000	1,000	50,000	1,000
一	1,200	100	1,200	100
二	1,200	100	1,200	100
三	1,200	100	1,200	100
四	1,200	100	1,200	100
五	1,200	100	1,200	100
六	1,200	100	1,200	100
七	1,200	100	1,200	100
八	1,200	100	1,200	100
九	1,200	100	1,200	100
一〇	1,200	100	1,200	100
一一	1,200	100	1,200	100
一二	1,200	100	1,200	100
一三	1,200	100	1,200	100
一四	1,200	100	1,200	100
一五	1,200	100	1,200	100
一六	1,200	100	1,200	100
一七	1,200	100	1,200	100
一八	1,200	100	1,200	100
一九	1,200	100	1,200	100
二〇	1,200	100	1,200	100

備考 (一)は優良地の比率低きを示す。

四 内地との比較

内臺人體重の度數分布状態を對比して見ると、大體に於て相吻合してゐる。就中女性のそれに於て然りとする所である。即ち女の順位は第七、八位と、第十三、十五位が彼此交互に前後するのみで、其の他の各順は全く同型を呈するも亦奇である。

男は同位にあるもの比較的少く首位、次位の外は僅かに第十二位、第十四位に限られてゐる。但し十六貫以上の偉丈夫に在りては内臺間全く同順位をなしてゐる。詳言すると第一位にある十三貫臺は本島總員の一割二分に對し、内地は僅に高い一割三分に當つてゐる。第二位の十四貫臺も内地側一二%高く、兩位を合算するときには内地は九八%高くなる譯である。而して五貫迄の低貫者は各貫孰れも島民勝れ、就中三貫級は内地より一八四%高し。六貫乃至八貫臺は一轉して内地側高率を呈するも、九貫臺に上れば又島民勝れ甚だ好勢の觀を示せども、十三貫臺の成年、即ち生産年齢級の中堅者に至れば再轉して島民の低劣なるを悲觀せざるを得ない状態である。

之を要するに本島の男は十二貫臺までの者六割強の多數を占めたるに對し、内地農民は五割六分に當つてゐる。従つて十三貫以上級は之に反してゐることが明かである。

更に女の状態を窺ふに前述のやうに大體同型を呈してゐるが、其の比率にあつては逕庭がある。即ち首位にある十二貫は本島の一割三分に對し、内地は一割五分に當り、又二位にある十一貫は島民の一割二分對内地一割四分の割合である。第三位の十三貫も島民は八六%の差減である。以上最多貫級たる十一貫乃至十三貫の人口比率を需むれば島民の三五二七%に對し内地は島民より四四二%高く三九六九%を示してゐる。島民の内地農民に比し甚しく高率を呈するは三貫臺の一

五八%と、二貫臺の一四五%等である。之を要するに順位の平衡を保に拘らず島民の成人期前後に於ける人口の稀薄なるは過眼視し得ざる大問題と謂ふべきである。更に換言すると島民は八貫臺までと十五貫以上者のみが多率で、其の中間が低率なるは大體成人の體位が不良なることを物語つてゐることである。

次に内臺人を比較したる、體重別人口を表章すべし。

□體重別人口内地農村との比較

體	重	本島(千分比)		内地		千分比		較差(一は本島の減)	
		男	女	男	女	男	女	男	女
一	總	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
二	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
三	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
四	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
五	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
六	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
七	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
八	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
九	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
一〇	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
一一	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
一二	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
一三	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
一四	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
一五	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
一六	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
一七	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
一八	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
一九	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
二〇	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
二一	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
二二	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
二三	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
二四	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
二五	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
二六	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
二七	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
二八	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
二九	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
三〇	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
三一	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
三二	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
三三	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
三四	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
三五	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
三六	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
三七	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
三八	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
三九	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
四〇	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
四一	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
四二	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
四三	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
四四	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
四五	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
四六	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
四七	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
四八	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
四九	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
五〇	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
五一	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
五二	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
五三	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
五四	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
五五	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
五六	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
五七	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
五八	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
五九	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
六〇	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
六一	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
六二	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
六三	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
六四	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
六五	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
六六	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
六七	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
六八	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
六九	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
七〇	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
七一	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
七二	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
七三	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
七四	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
七五	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
七六	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
七七	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
七八	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
七九	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
八〇	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
八一	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
八二	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
八三	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
八四	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
八五	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
八六	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
八七	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
八八	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
八九	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
九〇	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
九一	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
九二	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
九三	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
九四	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
九五	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
九六	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
九七	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
九八	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
九九	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)
一〇〇	貫	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	1000.0	(-)	(-)

體 重	本 島 (千分比)		實 地		較 差 (一は本島の減)	
	男	女	男	女	男	女
一	五	五	六	三	(-)	(-)
一	六	三	七	二	(-)	(-)
一	七	一	九	一	(-)	(-)
一	八	三	一	二	(-)	(-)
一	九	九	二	三	(-)	(-)
〇	九	九	三	三	(-)	(-)
計	五〇,九九一	二,〇〇〇	四九,七二三	一,〇〇〇		

第七 身長別人口

體重別人口にては單位を貫として觀察したるに對し、身長別人口は寸を單位として記述することとした。而して最低を二尺未滿、最高を六尺以上として各一括した、之は日本人の成胎兒の平均身長は概ね一尺六寸(四八—四九仙)内外であるからと、六尺以上の長人は稀少に屬するからである。その高低兩端の二尺乃至六尺間を更に各一寸級に分つて觀察を進めることとした。

一 全島の觀察

男は五尺臺の者最多を占め總人口の五割四分に達し、亞で四尺、三尺臺孰れも一割六分強に當り、二尺臺は一割二分強にて之に屬す。女は四尺臺最多にして四割五分を示し、亞で五尺臺の二割五分、其の他の順位は男と同型を呈してゐる。男女俱に二尺未滿、二尺及び三尺級の比率は殆ど伯仲し。四尺、五尺の二階級は之を合一するときは殆ど逕庭なき割合を示してゐる。即ち左表の如し。

身長	男		女	
	實 數	千 分 比	實 數	千 分 比
二尺未滿	四二五	八・三	五〇一	一〇・一
二尺以上	六,二八六	一二三・二	六,三五七	一二七・八
三尺以上	八,二九七	一六二・七	八,一三一	一六三・六
四尺以上	八,三四六	一六三・五	二二,三五八	四四九・七
五尺以上	二七,六三〇	五四二・二	一一,三六六	二四八・八
六尺以上	七	〇・一	一	〇・一
計	五〇,九九一	一,〇〇〇	四九,七二三	一,〇〇〇

男は前彼のやうに五尺臺の者約半以上を占むるも、之を各寸に分ちて之を考察するときには五尺三寸臺最多を占め總員の一割一分強に達す、第二位にあるは五尺四寸の一割強、亞いて五尺二寸、五尺五寸、五尺一寸、五尺六寸、五尺の順位を保ち第八位に至り四尺九寸臺に低下する。而して各寸別に別ちたる度數分布を一瞥するに一%乃至二%のもの多數を占めてゐる。即ち二尺二寸迄の四階級は一%に達せざるも、二尺三寸は一%に上り、其の間一%臺を續け三尺三寸に至つて一五%に騰り、三尺九寸に上りて二%臺に達し、四尺九寸には二五%に遞増し、五尺三寸には最高峯一%を突破する、五尺七寸よりは更に激減して一%臺に下り、五尺八寸には僅に〇四%に暴落した。

次に女の身長度數分布を窺ふに男より四寸低き四尺九寸臺を最多とし總員の二割四分を占め男の比率よりも高し、第二位乃至第八位の七階は首位と同じく總て男より四寸低きも奇とすべく、而して如上八階は順位に於ては相交錯してゐるが男は四尺九寸乃至五尺六寸間、女は四尺五寸乃至

至五尺二寸間にして、男女とも第九位に至りて其の歸向整然たらず。其の詳細は本項三、好悪兩地區に於ける身長別人口を参照せられたい。

二 地方別觀察

地方別に依る身長最多度數第十位までに就き、先づ男の状態から考察して見ると首位は各州とも全島平均と同じく五尺三寸臺である、其の比率も大體一〇%内外を示し、臺中州の一・六%より臺南州の一・〇%の間である。第二位は全島平均の五尺四寸臺と同位にあるは臺北、新竹、臺中の三州にして臺南、高雄の兩州は二寸低き五尺二寸臺にして各州一〇%内外を占めてゐる。第三位は五尺二寸臺を示して平均と同位にあるは臺北、新竹、臺中の三州にして南部二州は北中部に比して矮身なることが證せられる。第四位及び第五位は第二、三位の傾向と同じく、五尺五寸臺は北中部三州にては第四位となすに對し南部二州は第五位としてゐる。北中部の第五位とする五尺一寸臺は南部地方に在りては第四位に上つてゐる。第六、七位の各州の組合せは少しく其の趣を換へ臺北、臺南、高雄の三州同型を呈し五尺臺を第六位に、五尺六寸臺を第七位となすに對し、新竹、臺中兩州は前三州と全く交互に相反してゐるも奇觀である。第八位は新竹、臺中兩州を除く三州は全島平均と同型であるが新竹州は十歳男の平均身長である四尺一寸臺であり、又臺中州は五尺七寸臺の長身級であつて、この外に五尺七寸臺を最多十位までに占めてゐるのは新竹州十位のみが認められる。第九位は全島平均と同尺度のものなく、而して第九平均位(四尺一寸)より低きは臺北(三尺八寸)、高雄(三尺六

寸)の兩州にして第十位は前述の新竹州(五尺七寸)が平均位(四尺二寸)より高さ外、他は總て低く臺北州の三尺七寸より臺南州の四尺一寸の間である。

次に女の状態を一瞥すると男の傾向と同じく第一位は悉く四尺九寸臺である、第二位は高雄州の四尺八寸臺を除けば他の四州は總て平均位と同じく五尺臺である。第三位は高雄州の五尺臺を除くときはこれ又平均位(四尺八寸)と同型である。第四位及び第五位は全州總て平均位に合致し、第六七位は臺北、臺南、高雄の三州と、新竹、臺中兩州とは全く同揆であつて、平均位に吻合するは新竹、臺中兩州側である。第八位は平均と同じく四尺五寸臺にあるは新竹、高雄兩州のみである、而して本尺度を第九位とするは臺南州にて、臺北州は第十位としてゐる。第九位の平均位と同揆にあるは臺北、高雄の兩州に限られ、又第十位の平均型は臺南州のみである。之を要するに最多身長度には男にありては臺北、臺南、高雄の三州は孰れも四尺九寸乃至五尺六寸間、また新竹、臺中兩州は五尺乃至五尺七寸間を多數としてゐる。又女は臺北、新竹、臺南、高雄の四州同型を呈し孰れも四尺五寸乃至五尺二寸間にして、臺中州のみは四尺六寸乃至五尺二寸間と、他の三階級は三尺七寸乃至三尺九寸間が多數である。而して最多十位の全島平均と同軌にあるは男には之を認めざるも、女にありては獨り臺南州が合致してゐる。

その詳細を表示するときは、次表の如くである。

□身長別人口(男)